



次世代 EB 装置の開発に向けた 乗務員室の新たなカメラの設置に関する申し入れ 4月17日 提出!

常時、乗務員の状態を映し、本社モビリティサービス部門がリアルタイムで注視できる新たなカメラを、中央・総武緩行線用1編成(三鷹車両センター所属)の1・10号車に、設置する計画。目的は、乗務員の疾病や体調不良による事象が多発していることから、新たにシステムとして列車を止める方法を検討し、カメラの画質や光などの試験を行い事故防止に努めるためとされている。(2023年4月8日JR東日本より組合へ説明)



安全対策は理解するが、すでに乗務員室内には防犯カメラが設置されている上に

本社モビリティサービス部門にリアルタイムで注視されることは、心理的安全性を奪い、極度のストレスを生むことから

**正常な判断を阻害し、
鉄道の安全性の低下を招く恐れがある!**



そもそも現場の実態は…

緊張感の続く業務 専門知識が必要な業務 高い技術・技能を要する業務
長時間にわたる拘束・勤務 十分に取れない睡眠 落ち着いて摂れない食事など

**乗務員の健康管理に配慮し、労働安全の視点に基づいた
申し入れ項目 乗務労働の働き方改革が必要不可欠だ!**

申し入れ項目

1. 次世代 EB 装置の開発に向けた乗務員室への新たなカメラの設置は、乗務員が監視されることによる過度な緊張状態を生じさせ、安全を阻害することから導入しないこと。
2. 列車を安全に停止させるための保安装置に関する研究開発については、今後も DX をはじめとする様々な知見を取り入れつつ、ヒューマンファクターの視点を考慮していくこと。なお、ハード・ソフト両面からの対策を講じ「究極の安全」を追求していくこと。
3. 今申し入れに対する回答は、2023年5月15日までにを行うこと。また、団体交渉は2023年5月31日までに実施すること

**多くの“いのち”を運ぶ乗務員だからこそ、
安全に安心して乗務できる環境の実現を目指そう!**

